

2010年度連結決算実績

2011年5月23日
(株)メタルワン

損益計算書

(単位:億円)	2010年度実績		2009年度実績			
	連結	単体	連結		単体	
				増減		増減
売上高	25,235	14,088	21,090	4,144	11,188	2,900
総利益 (総利益率)	1,161 (4.6%)	321 (2.3%)	978 (4.6%)	183	271 (2.4%)	50
営業費	▲ 825	▲ 247	▲ 827	2	▲ 256	9
貸倒費用	▲ 43	▲ 45	▲ 0	▲ 43	0	▲ 45
暖簾償却	▲ 5		▲ 6	1		
営業利益	288	29	144	144	15	14
受取利息	6	8	7	▲ 1	10	▲ 2
支払利息	▲ 30	▲ 12	▲ 36	6	▲ 13	1
利息収支	▲ 24	▲ 4	▲ 29	5	▲ 3	▲ 1
受取配当金	18	70	20	▲ 2	122	▲ 53
その他営業外収益	28	2	35	▲ 7	3	▲ 1
その他営業外費用	▲ 11	▲ 8	▲ 16	5	▲ 6	▲ 2
持分法利益	18		▲ 15	33		
経常利益	317	88	139	178	131	▲ 43
特別利益	44	11	128	▲ 83	26	▲ 15
特別損失	▲ 37	▲ 21	▲ 44	7	▲ 28	8
税引前利益	324	79	222	102	129	▲ 50
法人税等	▲ 111	▲ 20	▲ 110	▲ 2	▲ 14	▲ 6
少数株主利益	▲ 25		▲ 8	▲ 17		
当期純利益	188	59	105	83	116	▲ 57

基礎収益

344

120

224

基礎収益=営業利益(貸倒費用を除く)+利息収支+受取配当金+持分法による投資損益

連結貸借対照表

(単位:億円)	2011年3月末		2011年3月末		
	2011年3月末	2010年3月末比	2011年3月末	2010年3月末比	
流動資産	7,904	609	流動負債	6,221	459
現金及び預金	334	▲ 97	取引債務	3,531	203
取引債権	5,719	344	短期借入金	2,393	239
棚卸資産	1,598	350	その他の流動負債	298	17
その他の流動資産	253	12	固定負債	1,199	▲ 10
			長期借入金	960	13
			その他の固定負債	239	▲ 23
固定資産	2,548	▲ 107	負債合計	7,420	449
有形・無形固定資産	1,108	▲ 68	資本金・資本剰余金	1,500	0
投資その他の資産	1,441	▲ 39	利益剰余金	1,169	129
			資産負債評価・換算差額等 (少数株主持分を除く純資産計)	12	▲ 86
			少数株主持分	(2,681)	(43)
			少数株主持分	352	10
			純資産合計	3,033	53
資産合計	10,453	502	負債及び純資産合計	10,453	502

連結対象会社数

	子会社	関連会社	連結対象計
事業投資先	91(+1)	49(▲1)	140(±0)
国内・海外法人	19(±0)		19(±0)
合計	110(+1)	49(▲1)	159(±0)

・括弧内は前年度末からの増減
・孫会社を除く連結対象子会社は78社

連結財務指標

	2011年3月末	2010年3月末
株主資本比率	25.6%	26.5%
D/E レシオ	1.11	1.04

・株主資本比率
= 少数株主持分を除く純資産 ÷ 総資産
・D/E レシオ
= (短期借入金 + 長期借入金) ÷ 純資産

2010年度 連結決算の概要

【事業環境】

当期の世界経済は、中国やインドなどの新興国及びアジア諸国の旺盛な内需が堅調に推移したこと、また米国や欧州などの先進国において景気対策による個人消費の回復や新興国向け輸出が拡大したものの、他方では中東・北アフリカ地域での政情不安に伴う原油を中心とした資源価格の高騰などから、今後の安定的成長には不透明感を払拭するには至らなかった。一方、わが国経済においては、政府の経済対策や新興国向け取引の拡大によって、景気持ち直しの動きが見られたものの、円高の進行やデフレに歯止めが掛からず下期には回復のペースにも鈍さが見られる状況となった。尚、2011年3月に発生した「東日本大震災」は、多くの人的被害、社会インフラ、わが国産業へも甚大な被害をもたらし、今後わが国経済活動への大きな影響が見込まれる。

【業績】

このような事業環境下、当社グループでは第三次中期経営計画(2009～2011年)の二年目を迎え、「サバイバル戦略」として、事業環境に応じたコスト構造改革・危機管理を実行する一方、「成長戦略」として、国内における「コア事業の再構築」を推進するとともに将来の「コア事業の構築」にむけた事業戦略を推進してきた。また、自動車、電機、建設機械・産業機械向け鋼材取引が国内外で増加したことから、国内における建設鋼材の取引の低調さ、エコカー補助金終了に伴う取引反動減などを補うことができた。また、輸出取引も、アジア向けを中心に取引増加する結果となった。国内における建設鋼材取引の低調さを自動車、建設機械等の取引がカバーした結果、当年度の当社グループ連結業績は、売上高2兆5,235億円(前連結会計年度比19.6%増)、経常利益317億円(前連結会計年度比128.4%増)、連結純利益188億円(前連結会計年度比79.3%増)と、前年度実績を大きく上回る結果となった。

<主な項目の状況>

1. 売上高、総利益

国内取引やアジア向け輸出取引を中心として堅調に推移し、売上高は前年度を4,144億円上回る2兆5,235億円、総利益は前年度を183億円上回る1,161億円となった。

2. 営業費

取引の増加に対し、グループ全体では人件費を中心とした経費抑制を進めたことから、営業費は前年度から2億円負担減の825億円となった。

3. 特別損益

特別利益は、関連会社株式上場益や有価証券の売却等により44億円となった。特別損失は、固定資産の減損や有価証券売却損、事業投資からの撤退損失等により37億円となった。

4. 取引種別・対面業種別売上高

売上高を取引種別に見ると、国内が1兆7,110億円(全体の67%)、海外が4,154億円(同17%)、輸出が3,922億円(同16%)となった。また対面業種別には、自動車、建設、及び流通業界向けで50%を超え、これに製鋼原料、電機業界向けが続いている。

5. 総資産、株主資本

売上高の増加に伴い取引債権及び棚卸資産が増加したことから、総資産は前年度末(2010年3月末)から502億円増加し1兆453億円となった。この内、流動資産は76%を占め、引続き流動性の高い財務構造を維持している。また、少数株主持分を除く純資産は、資産負債評価・換算差額等の目減りがあったものの、利益剰余金の増加により、前年度末比43億円増加し2,681億円となった。株主資本比率は25.6%と高い水準にあり財務の健全性を維持している。

6. 有利子負債

売上高の増加による取引債権債務の増加などにより、有利子負債残高は前年度末に比べ252億円増加し3,353億円となった。

【関係会社の状況】

国内では、2010年11月に子会社の五十鈴(株)及び(株)スズヤスの株式を承継資産とする新設分割により、両社事業を統括する(株)メタルワン・サービスセンター・ホールディングスを設立。傘下のサービスセンター事業を統括・運営することで、傘下各社の有機的な繋がりを促進しつつ経営資源の最適配分や各社の生産性向上に努めている。また海外では、経済成長に伴い自動車の需要増加、生産拡大が期待されるインドにおいて、マルチ・スズキ社向けの鋼板加工センター事業への取組を開始した。